

+++++
「植物と人々の博物館メールマガジン」 第17号 2016年6月28日発行
+++++

六条大麦を手で脱穀、次いで団子麦、南部小麦2品種の刈り取りを梅雨の合間にしました。雑穀畑では大方の雑穀が順調に生育しています。岡部さんから頂いたキノアだけは、発芽は良好だったのですが、アカザと同様に、テントウムシダマシなどに被害され、壊滅状態です。自家用野菜は大方順調です。ジャガイモの「インカのめざめ」はとてもおいしかったです。わざと芽掻きはせず、小さいものをたくさんとって、伝統的な健康長寿食「セイダノタマジ」を作りました。たくさんとれたニンニクは、温野菜にして食べますが、ほとんど匂わないです。日本産は1個300円ほど、さらに有機無農薬ですから高品質を自費しています。

一昨年採種したひよっと（ウズラマメ）は発芽せず、昨年おいしく食べてしまって、種取をしなかったことが悔やまれます。また、秋子さんに恵んでいただきました。岡部さんから頂いた半白キュウリは種取をして、播種、よく発芽したのですが、憎いナメクジに双葉ごと丸食いされました。それでも生き残った苗は実がなるほどに生育しました。

会員および配信を希望される方に公開活動ニュースなどをお送りしています。ご関心のあるご友人に転送などでご紹介いただき、「辺境」の地道な活動に薄情な「マスコミ」ではなく、顔見知り信頼の「ロコミ」で転送伝達していただくと嬉しいです。連絡先は下記メールアドレスです。

○予定

展示解説・作業予定日：6月26日（月）、7月は、天気予報を見て決めます。

年に1日、月に1日でも、未来への遺産である民具や図書の整理をご一緒にいただければありがたいです。参加希望者は木俣にメールしてください。kibi20kijin@yahoo.co.jp

1. 第38回環境学習セミナー

『自然と暮らす知恵と技能を学ぶ。山村の生活技能・環境学習（冒険学校）』

日時：2016年9月3日（土）～4日（日）

場所：山梨県小菅村役場および中央公民館、自然文化誌研究会拠点のキャンプ場（小菅村内）

参加費：資料代など1,000円（小菅村民無料）、懇親会参加費2,000円

宿泊費：キャンプ場：1泊朝食（自炊）で2,000円 旅館：1泊朝食で6,500円

連絡問合先：NPO法人自然文化誌研究会 事務局 黒澤友彦

e-メール npo-inch@wine.plala.or.jp Tel: [0428-87-0165](tel:0428-87-0165) 携帯 090-3334-5328

主催：NPO法人自然文化誌研究会、エコミュージアム日本村／ミュージーズ研究会

共催：NPO法人ECOPLUS、協力：東京学芸大学環境教育研究センター

後援：小菅村、小菅村教育委員会、小菅村商工会、小菅村観光協会

※この事業は 公益財団法人 国土緑化推進機構 「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて実施します。

趣旨：

自然文化誌研究会は、秩父多摩甲斐国立公園とこの周辺にある山村で環境学習活動／冒険学校や雑穀調査研究、これらの成果を応用して、エコミュージアム日本村／トランジション小菅など、山村維持の取組みを40年あまり続けてきました。現在、精神性さえもがデジタル化されようと大きく変わりつつある世界のなかで、自然とつながるアナログ的な伝統的知識・技能が過疎高齢化によって決定的に失われようとする変曲点にあります。現実世界が仮想世界に蔽われようとするこの時代に、私たちアナログ自然・文化好きの冒険人たちはこの巨大な趨勢にどう抗うのか。

自然と直に向き合ってきた山村の豊かな暮らしを再習得しながら、私たちが生活する人生を深く考えるために、親密な話し合いの場をご一緒しましょう。自然学校・冒険学校などで培ってきた経験の蓄積を学び直し、私たち市民がこのくにをどのように再創造しながら、未来に向けて実体のある生活様式をどのように維持するのか、ともに学び、考えるためのセミナーにしたいと思います。

プログラム：

9月3日（土） 昼の部～会場は 小菅村中央公民館

12:30～ 受け付け開始

13:00～13:20 趣旨案内と挨拶 中込卓男（自然文化誌研究会代表）

13:20～14:20 「暮らしを創造する生きる力を生む冒険、自然体験」 佐々木豊志さん（くりこま高原自然学校）

山村で自然学校を経営ながら、2008年「岩手宮城内陸地震」に遭遇して非常時の環境学習（サバイバル）の意味を、身をもって示した。さらに、この経験を活かして、東日本大震災が起こった時には、災害ボランティアセンターを立ち上げ緊急支援体制を構築した。最近、世界的にも、自然学校がいわゆる「デイズニー化」しており、冒険心まで演出されることを危惧している。幼少期の自然体験の重要性から森のようちえん、さらに、自足可能な暮らしを想像するために森林資源利用から木質バイオマス、馬搬など復権と取り組んでいる。

14:30～15:30 「小菅村の自然、知恵と技能」 木下善晴さん（建設業・小菅村80代）
加藤源久さん（自然ガイド・小菅村60代）

15:40～16:40 意見交換会

テーマ：人生が冒険でなかったら、どこに生きる意味があるのか。困難に挑戦してこそ面白い人生だ。

16:40～17:00 まとめ 中込卓男

18:30～24:00 自然文化誌研究会拠点のキャンプ場（小菅村内）

※当日夜は、小菅村小永田地区の伝統芸能である「神代神楽」が奉納されます、希望者は見学ができます。

9月4日（日） 8:30～11:30 伝統技能実技講習 講師：木下善晴さん、加藤源久さん

2. シンポジウム「農山村の環境と生活文化から学ぶ都市との交流」の企画準備状況

第39回環境学習セミナーを、伝統知共同研究の成果発表のために、企画しています。

現在は下記のところまで予定しています。来春のことですが、ご予約に入れていただき、厚志による実りある、ゆったりとした話し合いの場にしたいと思えます。ご友人に転送・転載などご助力ください。よろしくお願ひします。

日時：2017年4月15～16日（土日）1泊2日、日帰り参加もよい。

場所：神奈川県相模原市緑区、藤野地区の「篠原の里」ほか。

宿泊：「篠原の里」、藤野倶楽部「無形の家」ほか

参加費：実費程度

主催：自然文化誌研究会、ECOPLUS（伝統知共同研究）

共催：エコミュージアム日本村（トランジション小菅）／ミューゼス研究会ほか

趣旨：

日本の農山村、とりわけ山間地の集落では、過疎高齢化の影響が深刻となり、長年受け継いできた自然と調和した伝統的な暮らしが消滅する寸前に立ち至っています。一方で、何百年、時には千年以上にわたって暮らしを維持してきた集落に蓄積されてきた伝統的知識体系や技能には、現代的な課題となった「持続可能な社会づくり」への示唆が豊かに保全されていることが明らかになってきています。

自然だけではなく、身近な土地からさえも切り離されて世代を重ねた都市部の住民にとっては、この智慧や技能を総合的に体験し、自らの暮らしの組み立てを考える機会が極めて有効です。自然を単に体験するだけでなく、その地に育まれた生活文化全体を題材とした都市との交流は、これからの農山村と都市住民の交流の新たな姿として探求される必要があります。本事業では、3年次計画で実際の伝統知学習プログラム展開をしつつ、この新たな交流実践の姿を描き出す試みをしてきました。

本シンポジウムでは、事業成果の報告とともに、社会的に成果を位置づけるために基調講演と他の先進事例紹介を行い、農山村と都市からの参加者ともに、生活における伝統知や技能の大切さとその継承による、健全なライフスタイルについて幅広く話し合いたいと思ひます。

幸いなことに、開催地藤野は日本のトランジション・タウン活動の中心であり、シュタイナー学校やパーマカルチャー・センターもある。素のままの美しい暮らし（sobibo）へとライフスタイルを変容するために学ぶための良い実践が蓄積されています。これらの文化的財産をもとに、これからの私たちの生活や人生の先行きを明るく直観できるような統合概念をともに発見したいと思ひます。

内容：

- 1) 基調講演：現代文明の移行と伝統知・生業（仮題）
設楽清和さん（パーマカルチャー・センター）
榎本英剛さん（トランジション・タウン藤野）
- 2) 伝統知共同研究報告 研究メンバーからの報告
- 3) 座談会風の総合討論
- 4) ポスター発表展示 参加者から募集

5) 交流会 (夕食懇親会)

3. 日本村塾 日程は未定

ご意見をお知らせください。

1) 自給農耕ゼミ第7回; 藤野の雑穀畑を観察しながら、読書会はいかがでしょう。末村さん、宮本さん、よろしくご検討ください。 著『パーカルチャー』

2) 民族植物学ゼミ第3回; 希望者があれば、9月になってからでも読書会を再開したいです。

3) 扶桑園ゼミ第3回; 希望者があれば、日本国憲法についてテキストをもとに話し合ってみたいと思います。

4. 民族植物学第10号 編集中、発行は初秋を予定しています。第11号の原稿締め切りは2017年3月末予定です。

○報告

1. 自給農耕ゼミ第6回

日時: 6月18日(土)、10:30~14:30

場所: 藤野駅北側すぐ横の畑(藤野倶楽部) および百姓の台所・結びの家

主催: 日本村塾自給農耕ゼミ

内容: 農業生産法人藤野倶楽部、TT藤野お百姓くらぶと一緒に各種雑穀を播きました。作業後、百姓の台所へ移動、昼食。結びの家で木俣研究員が「生業の勧め。欧米の雑穀、古守先生懐古など」について話しました。参加者は12名ほど。畑は宮本さんと末村さんが育成管理しています。JR中央本線ローカル電車3号車付近に乗ると、藤野駅ホームに停車した時に、北側車窓から良く見えます(写真)。駅の跨線橋からは全体が見渡せ、シコクビエやモロコシなど、見知らぬ雑穀に驚かれるでしょう。お百姓くらぶによって、30年ほど前に宮本さんが農家から分譲を受けた、藤野周辺の在来の赤いアワも復活しました。



写真: 左から、藤野倶楽部の雑穀栽培園、小菅の雑穀栽培園、同じく雑穀見本園。

2. 伝統知研究会

日時: 6月22日(水) 18:30~

場所: 神田のECOPLUS事務所

内容：2年度のまとめと3年度の計画について、特に、環境学習プログラム参加者へのアンケート結果の解析、シンポジウムについて話し合いました。

3. 第37回環境学習セミナー 『山村の生物文化多様性と生活の豊かさ』

日時：2016年6月25日(土)

場所：山梨県小菅村中央公民館、参加者は40名ほど。

主催：NPO法人自然文化誌研究会、エコミュージアム日本村／ミュージーズ研究会

共催：NPO法人ECOPLUS、協力：東京学芸大学環境教育研究センター

後援：小菅村、小菅村教育委員会、小菅村商工会、小菅村観光協会

※この事業は公益財団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて実施します。

内容：青柳諭（ミュージーズ研究会代表）が趣旨説明と挨拶。山下祐介さん（首都大学東京・准教授、地域社会学・環境社会学）が「白神学の経験から、地域を知ること、継承すること、またその難しさ。および、首都圏から見た地方創生、人口減少社会をどう捉えるか」について話題提供しました。次に、白水智さん（中央学院大学・教授、日本史・山村史）が「山の恵みに彩られた山村の暮らしと文化を活かした震災からの復興」と題して、山には多くの資源があり、住民はそれを活かす多様な知識や技術をもって、豊かに暮らしてきたことについて話題提供し、また、大震災に見舞われた長野県栄村（秋山郷）における文化財を活かした復興支援活動についても紹介しました。

糧講師と参加者との意見交換のあと、木俣美樹男（東京学芸大学名誉教授、民族植物学）が、「生業のすすめ」としてまとめをしました。その後、交流を深めながら座談会をしました。

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳、小川泰彦
ミュージーズ研究会／トランジション小菅（山梨）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次
事務局：黒澤友彦（小菅村在住） npo-inch@wine.plala.or.jp

植物と人々の博物館：館長 木下善晴（小菅村在住）

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

連絡先：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

個人 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

.....